堺市における分布状況の変化と居住者意識から捉えた都市農地の持つ現代的価値に関する研究

緑地計画学　佐藤真央

第1章　研究の背景及び目的

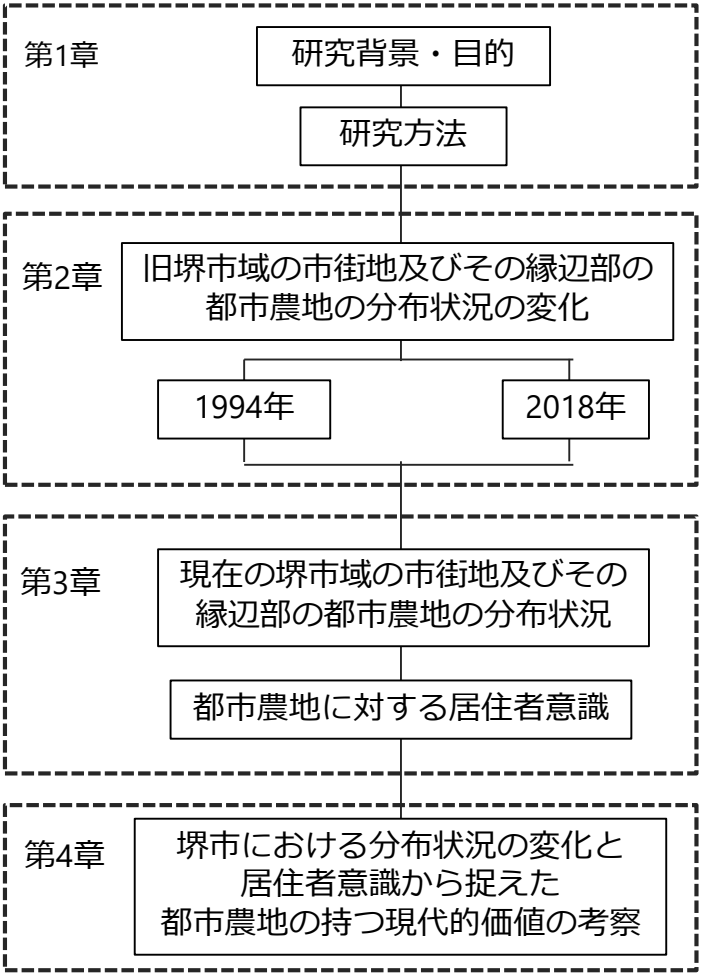
研究の背景

都市農地は、市街化の進展に伴い減少してきたが、2015年の都市農業振興基本法の制定に見られるように、その価値が見直されている。

研究の目的

本研究では堺市を対象に、近年の市街地の拡大に伴う都市農地の分布状況の変化と近隣居住者の意識から都市農地の現代的価値を考察することを目的とした。

論文構成



第2章　旧堺市域における都市農地の分布状況の変化：研究方法

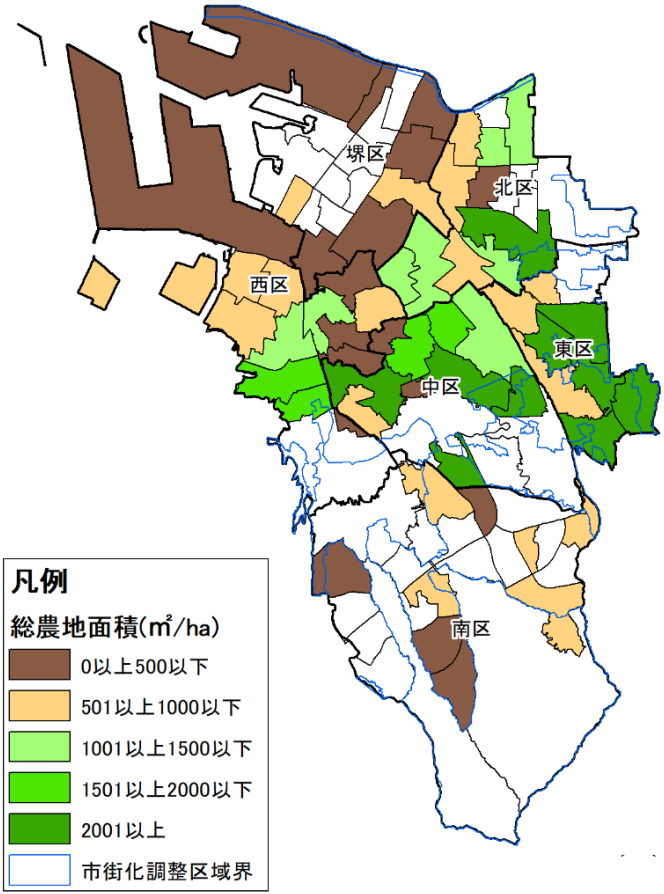
既往研究

1994年、山本らの研究より
旧堺市域の小学校区のうち**市街化区域が50%以上**を占め、**農地が存在**する小学校区**58校区**を対象に、都市農地の分布状態を把握した。
田畑別の都市農地の分布状態によって7グループに類型化
（田集積地区・混在集積地区・畑集積地区・
田分散地区・混在分散地区・畑分散地区・希少地区）

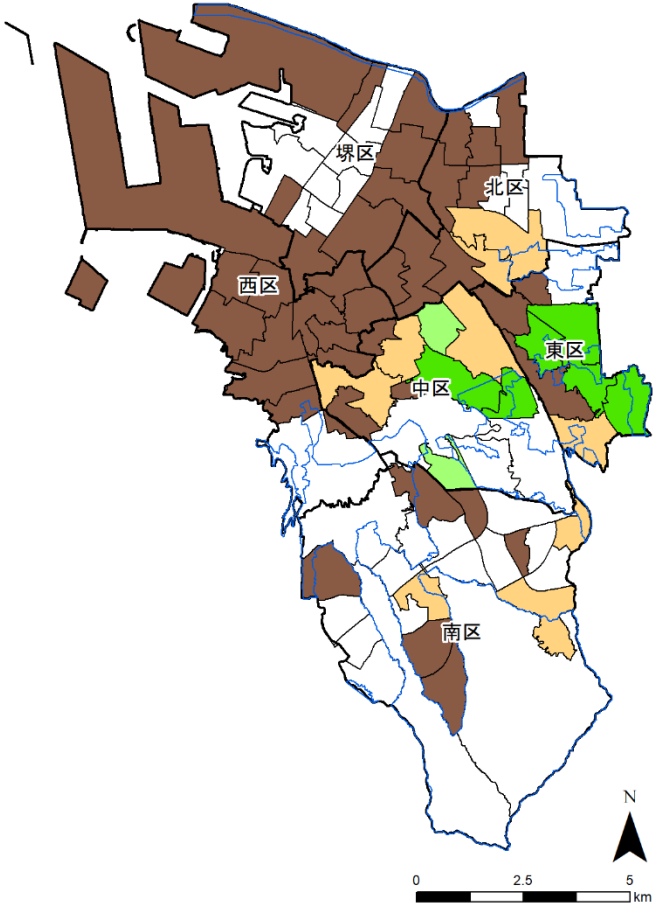
旧堺市域における2時期の都市農地分布状況の変化

- **堺市緑被現況図（2018）**で都市農地の状況を把握
- ArcGIS proで地理情報解析を行い、1994年、2018年における都市農地の旧堺市域における位置と分布形態別にその変化を解析

第2章　旧堺市域における都市農地の分布状況の変化

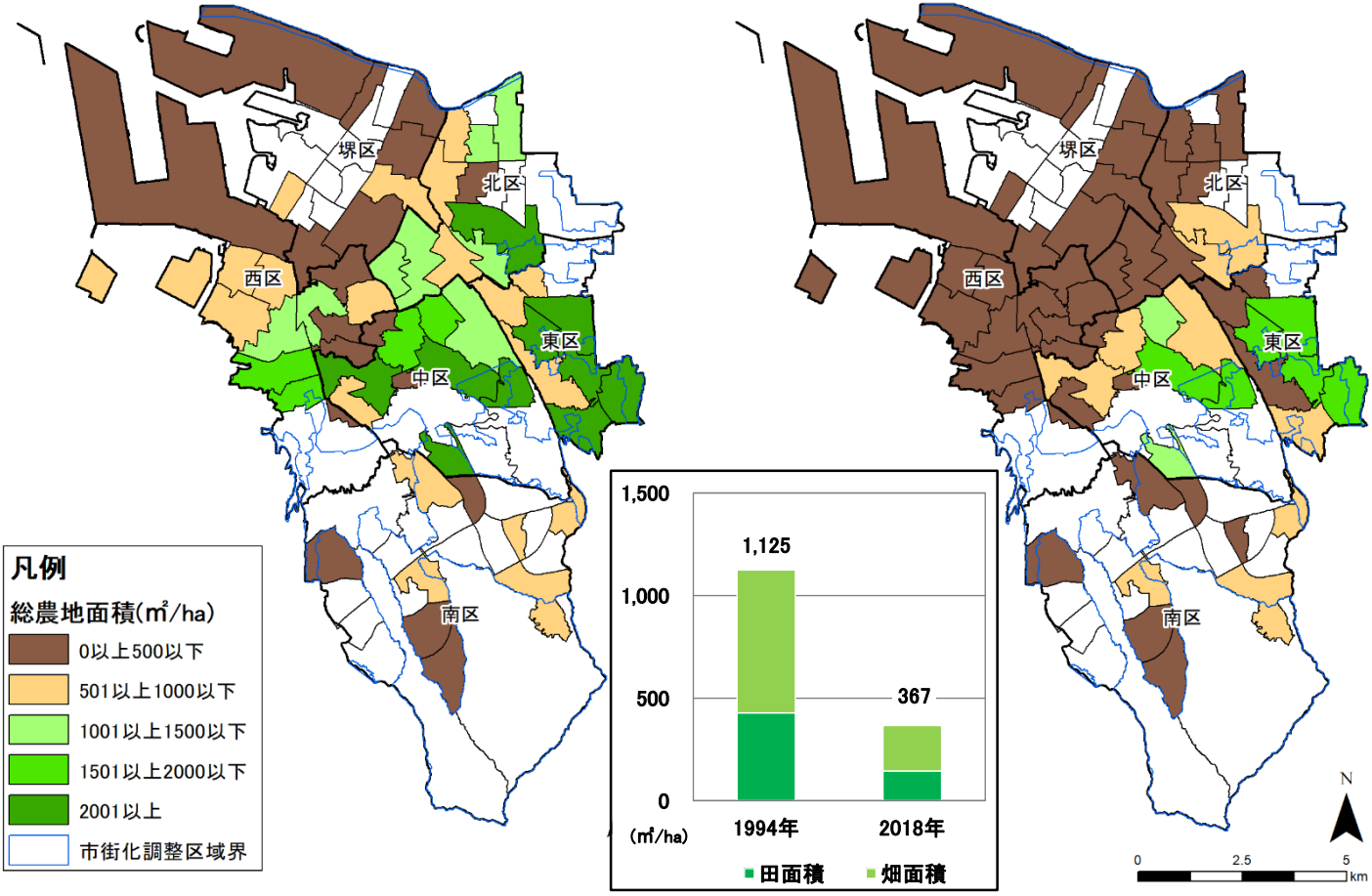


1994年　小学校区別都市農地面積



2018年　小学校区別都市農地面積

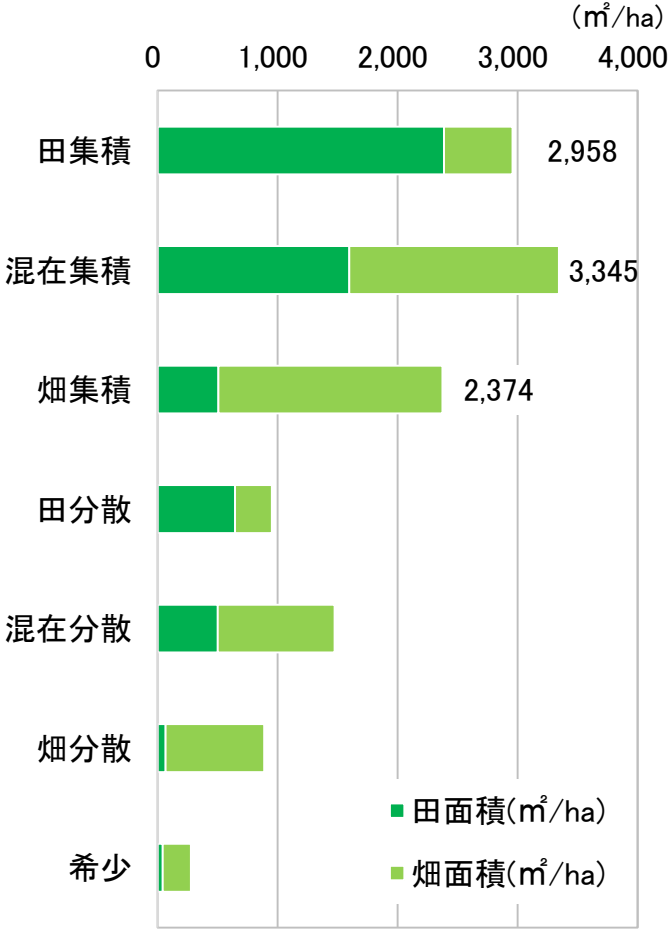
第2章　旧堺市域における都市農地の分布状況の変化



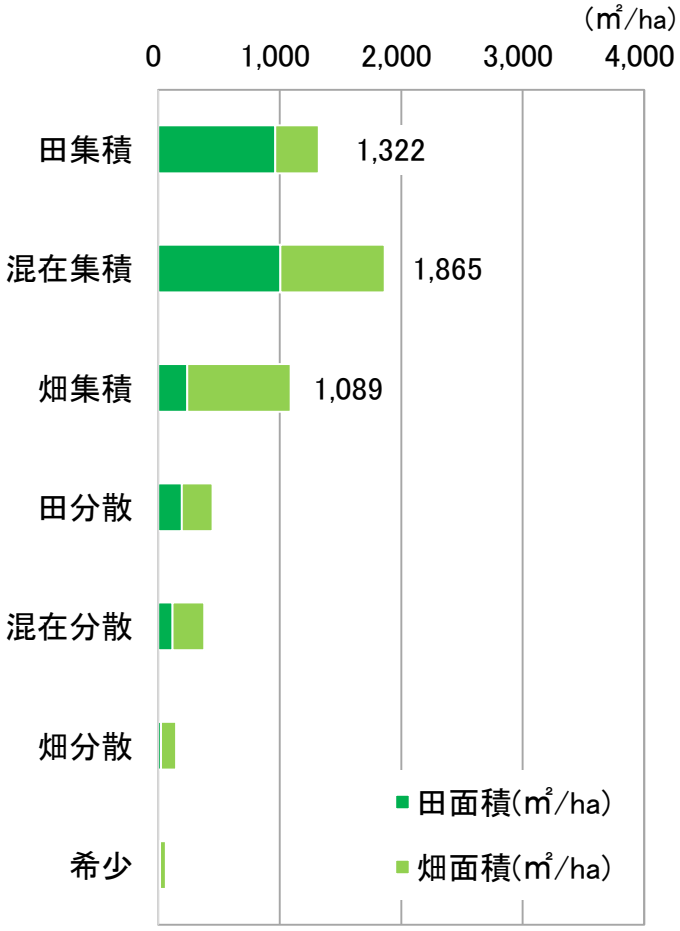
1994年　小学校区別都市農地面積

2018年　小学校区別都市農地面積

第2章　旧堺市域における都市農地の分布状況の変化



1994年 分布形態別田畑面積



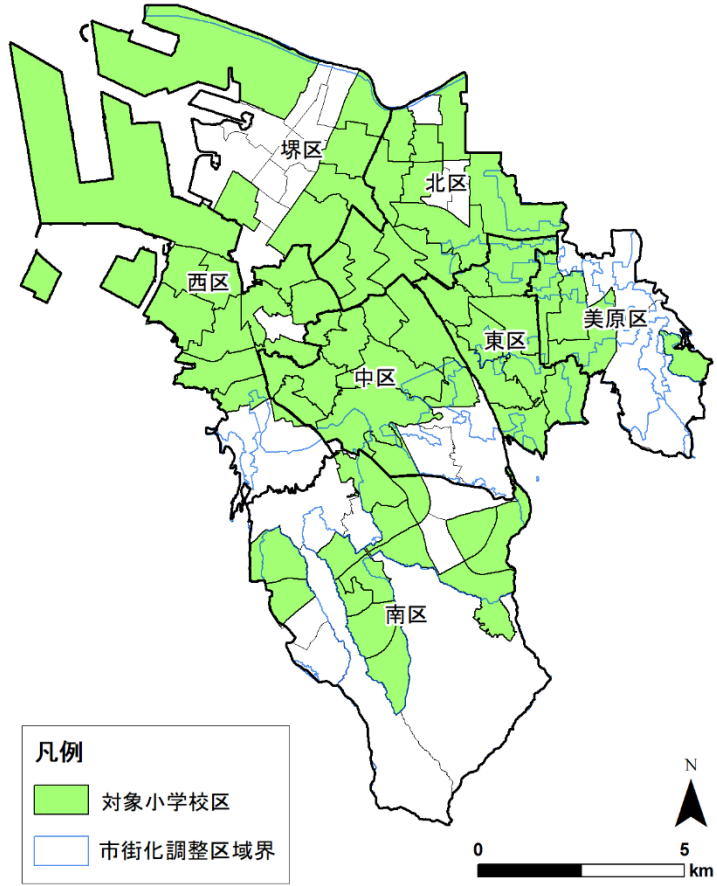
2018年 分布形態別田畑面積

第3章　現在の堺市域における都市農地の分布状況：研究方法

現在の堺市域において、 2018年の堺市緑被現況図を用いて**小学校区のうち**市街化区域が**50%以上**を占め、**都市農地が存在**する小学校区を把握する。
→対象：68校区

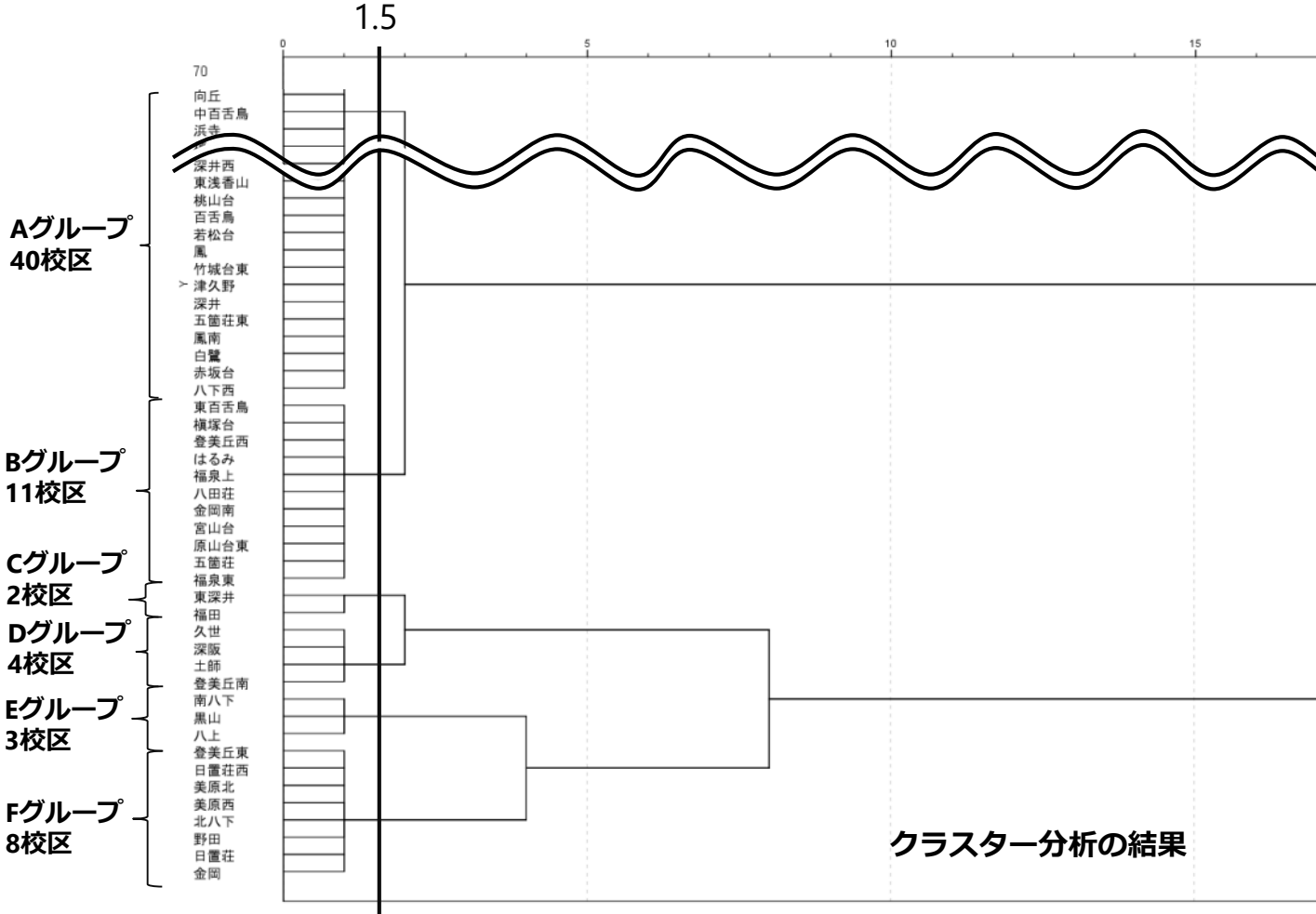
単位面積(1ha)当たりの田畑別の
- 面積
- 箇所数
- 周囲長　をもとに、

クラスター分析
→都市農地の分布形態別に小学校区を分類



現在の堺市域における対象小学校区

第3章　現在の堺市域における都市農地の分布状況



Ｅグループ（田中心地区）：南八下、黒山、八上

	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
南八下	2,876	2,168	708

南八下の都市農地の分布状況

第3章　現在の堺市域における都市農地の分布状況

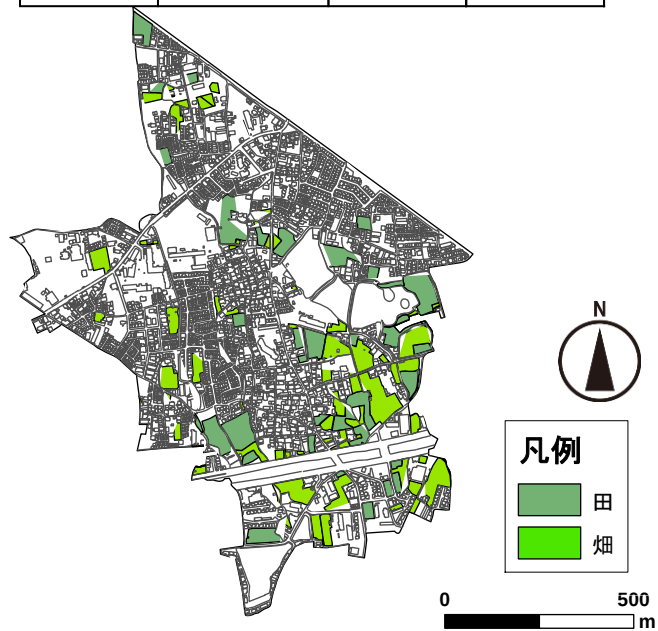
Ｃグループ(畑中心地区)：福田、東深井

	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
福田	2,261	406	1,855

福田の都市農地の分布状況

Ｆグループ(田畑混在地区)
：日置荘西、野田等の8校区

	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
日置荘西	1,775	883	892



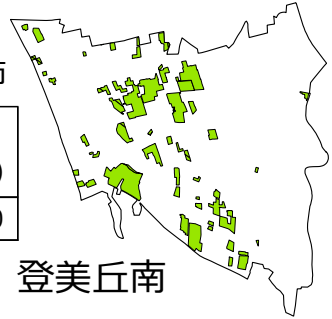
日置荘西の都市農地の分布状況

第3章　現在の堺市域における都市農地の分布状況

Dグループ
(畑優位地区)

登美丘南、
久世、深阪、土師

	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
登美丘南	980	0	980



登美丘南

Aグループ
農地希少地区

百舌鳥、白鷺
等の40校区

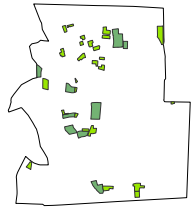
	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
百舌鳥	210	67	142

Bグループ
(農地分散地区)

五箇荘、金岡南
等の11校区

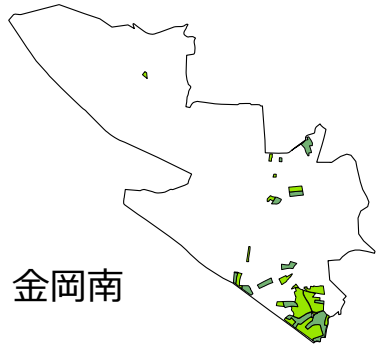
	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
五箇荘	474	242	232

	総農地面積 (㎡/ha)	田面積 (㎡/ha)	畑面積 (㎡/ha)
金岡南	531	248	284



五箇荘

百舌鳥



金岡南

凡例

田

畑

N

0　500

0　500
m

第3章　都市農地に対する居住者意識：研究方法

都市農地に対する居住者意識

方　法：アンケート調査　郵便留め置き方式

日　時：2020年11月

対　象：8校（田中心地区：南八下、田畑混在地区：日置荘西・野田、畑中心地区：福田、畑優位地区：登美丘南、農地分散地区：五箇荘・金岡南、農地希少地区：百舌鳥）

配布数：各地区500部ずつ、4,000部

有効回答数（率）：1,015票（25.4%）

項　目：<u>都市農地に対する意識</u>

・校区内の都市農地に対する認識

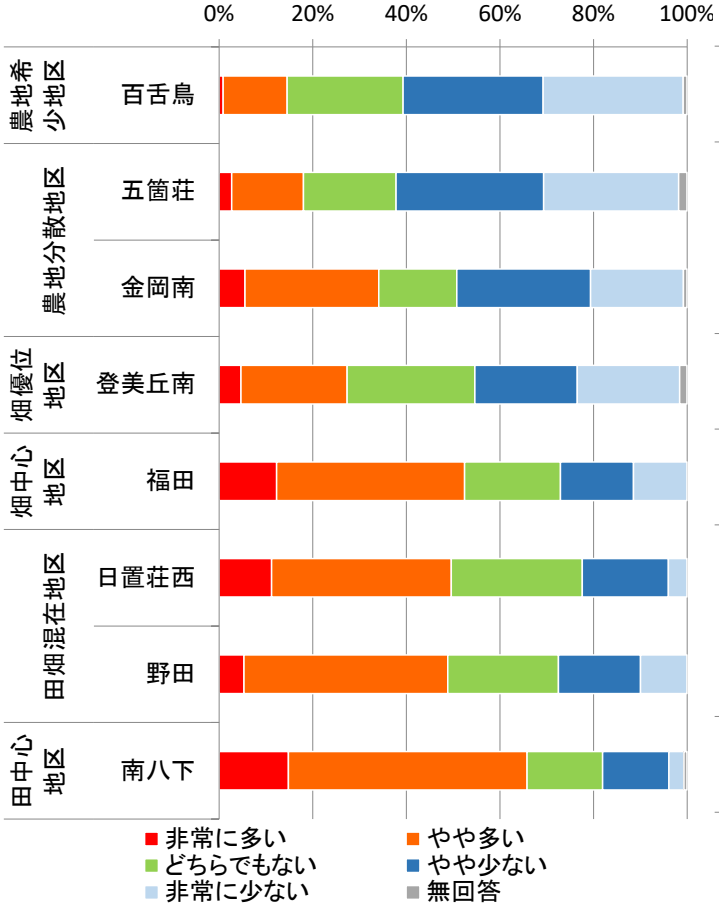
・校区内の都市農地を見かける頻度

<u>コロナ禍における都市農地の役割に対する認識</u>

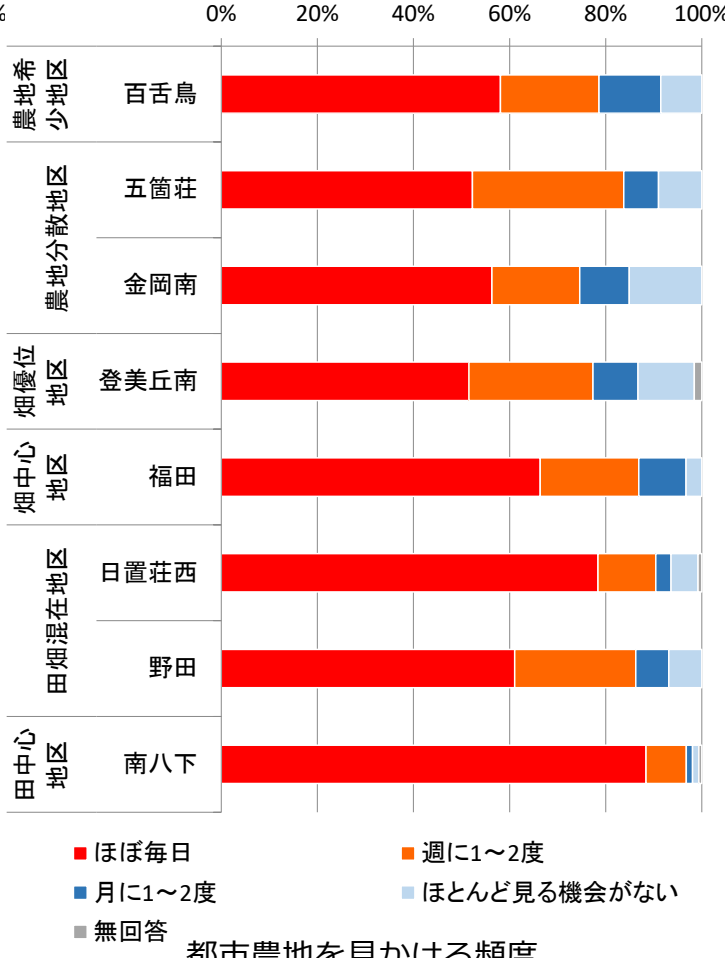
<u>都市農地が有する緑地機能に対する評価</u>

<u>今後の都市農地の活用意向</u>

第3章　都市農地に対する居住者の認識と見かける頻度

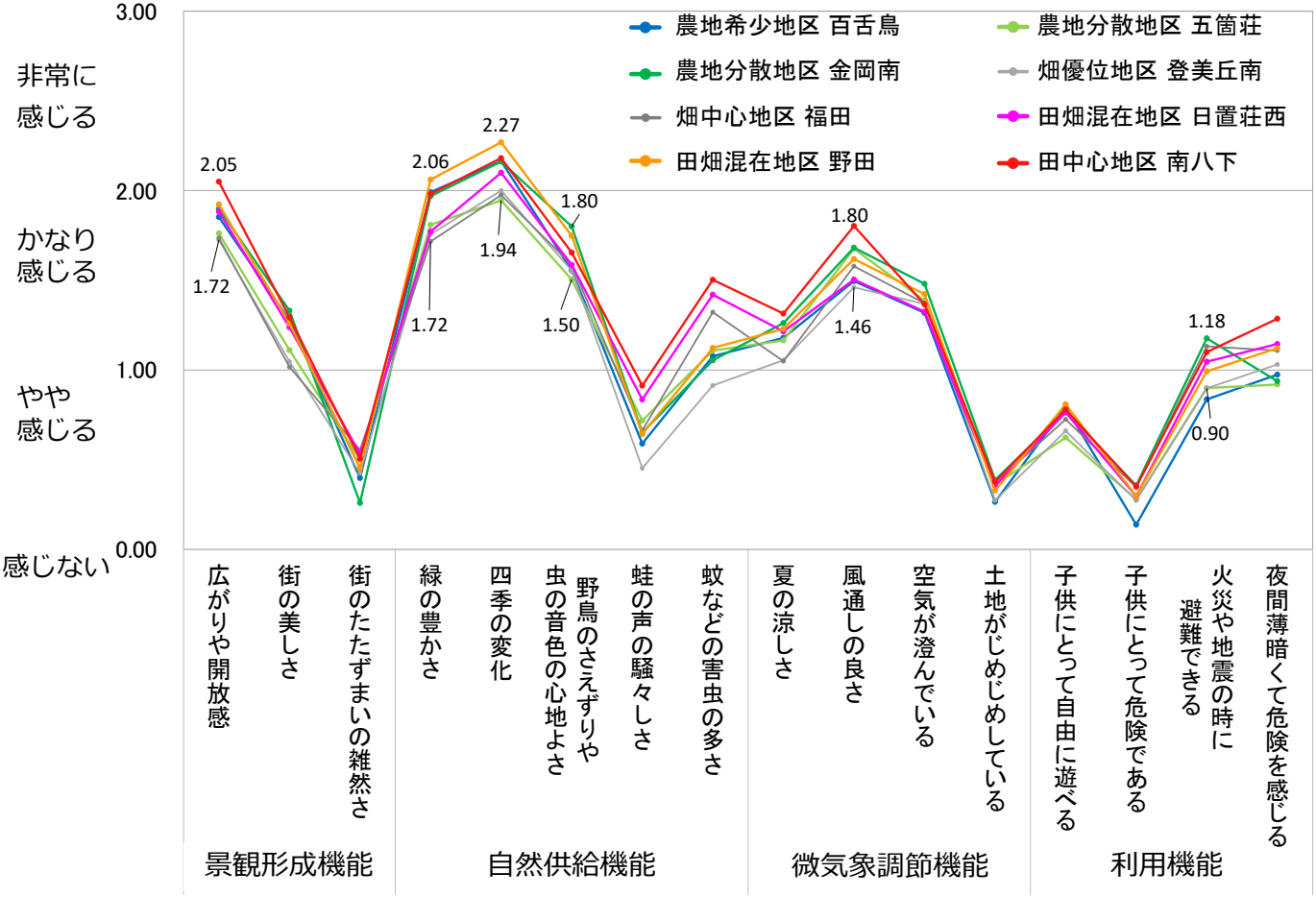


都市農地に対する居住者の認識



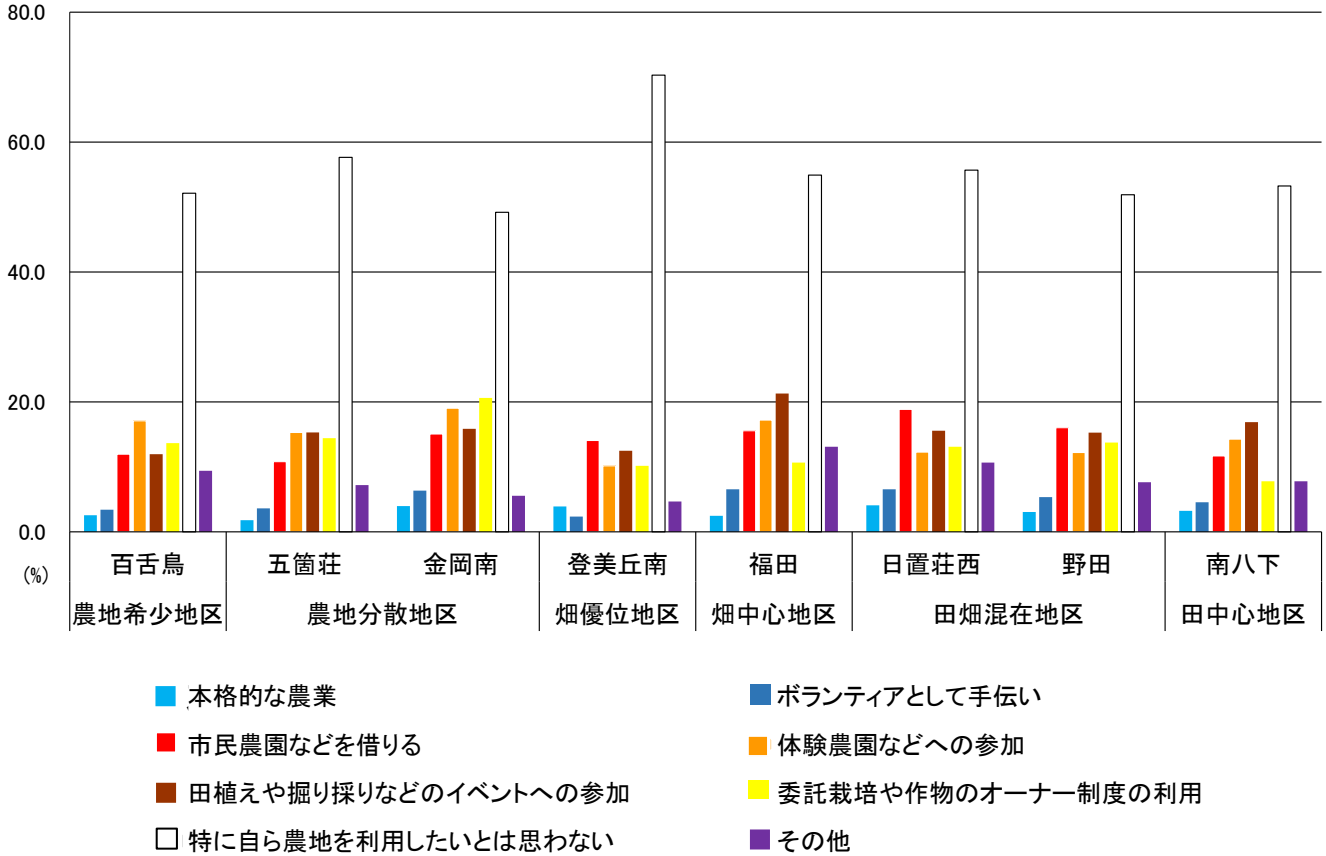
都市農地を見かける頻度

第3章　都市農地が有する緑地機能に対する居住者の評価



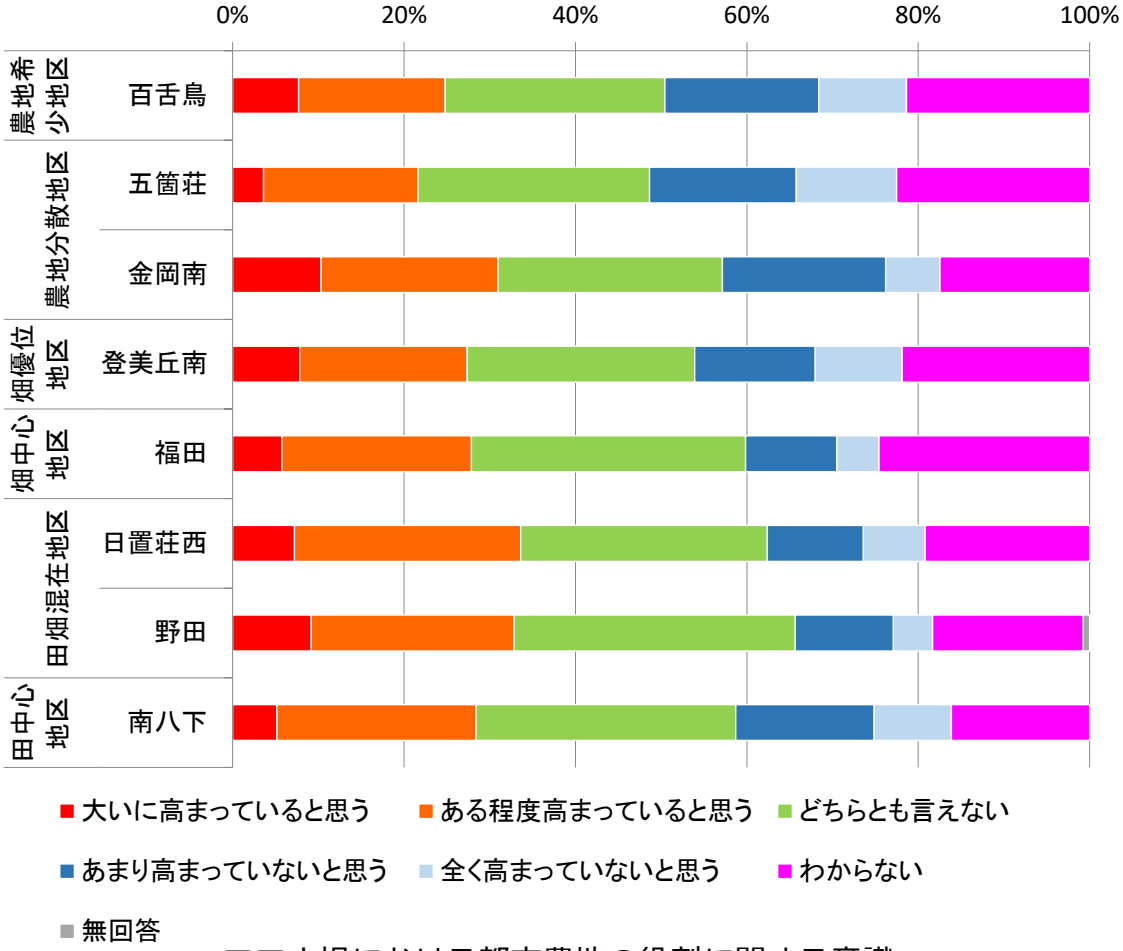
緑地機能に対する居住者の平均評価点

第3章　今後の都市農地の活用意向



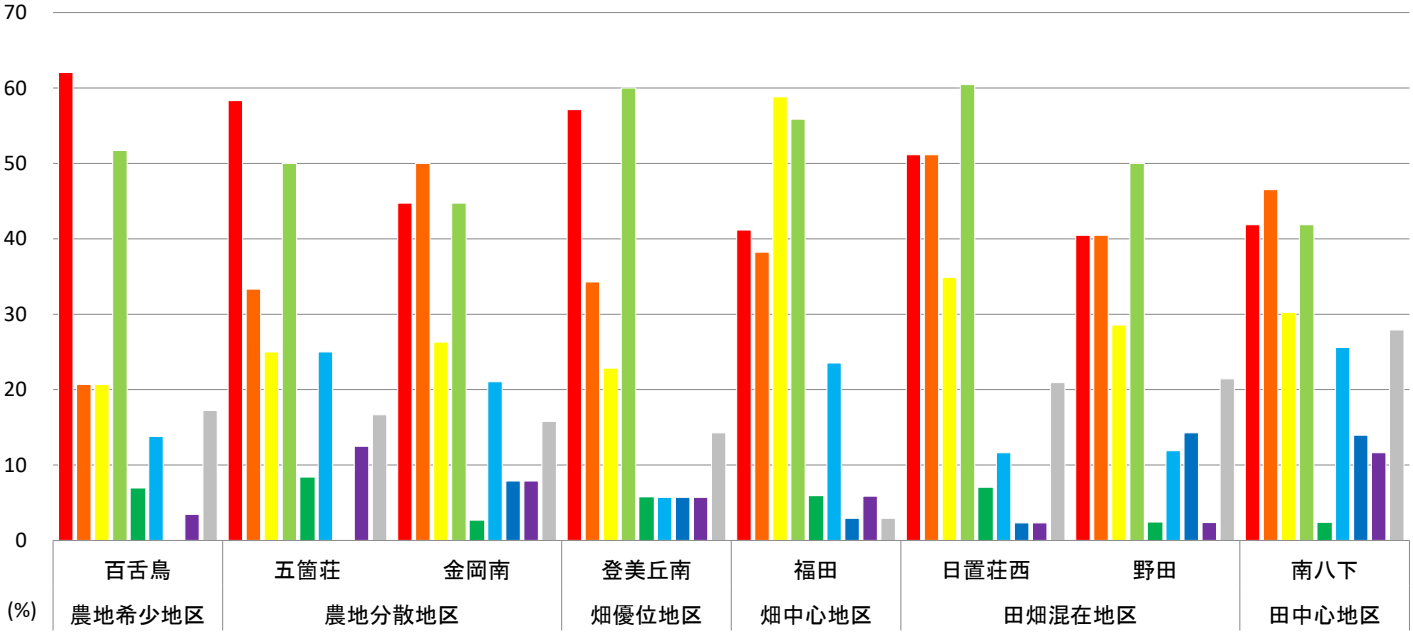
今後の都市農地の活用意向

第3章　コロナ禍における都市農地の役割に関する意識



コロナ禍における都市農地の役割に関する意識

第3章　コロナ禍における都市農地の役割に関する意識



- テレビや新聞報道によって食料供給の大切さを感じた
- 散歩やジョギングで田畑を目にする機会が増加した
- 身近に農作業を見て農業への親しみを感じた
- 直売所での購入による地産地消の大切さの実感
- オンライン通販などで安全で安心な米や野菜の購入をはじめた
- 自宅で家庭菜園をはじめるようになった
- 市民農園や体験農園などで自ら農作物を育てるようになった
- 農家の農作業を実際に手伝う経験をした
- その他

先程の質問よりコロナ禍において都市農地の役割が高まったと感じる理由

第4章　堺市における分布状況の変化と居住者意識から捉えた都市農地の持つ現代的価値

旧堺市域における都市農地の分布状況の変化

旧堺市域では1994年から2018年にかけて3分の1に減少するが、現在では中区や東区に都市農地が分布している。

都市農地の発揮する緑地機能

緑地機能：1994年と同様に**緑の豊かさ**、**四季の変化**、**広がりや開放感**
1994年時点と比較して若干低下するものの、**野鳥のさえずり**や**風通しの良さ**も確認できた。

- 既往研究と同様に田がまとまって存在する地区で評価が高い
- 田とともに畑が混在して存在する地区、さらに、密集した市街地の中で都市農地が分散して存在する地区や都市農地がわずかに残る地区においても評価されている

第4章　堺市における分布状況の変化と居住者意識から捉えた都市農地の持つ現代的価値

都市農地の持つ価値

自然供給や景観形成、微気象調節といった都市農地の存在価値のみならず、身近で新鮮な農作物を安心して食べられるといった食料供給価値に加えて、市民農園や体験農園、田植えや掘り取りイベント等を通じて都市住民自らが農業を体験するといった利用価値も少なからず確認できた。

都市農地が保有するこのような現代的価値は、
都市農地が少なくなることで
その希少性が高まることで評価が高まるとともに
コロナ禍においても少なからず評価が高まりつつあると言える。